

(唄)平成七年度  
(糸)令和四年度

三十 惚れて通う  
並木 駒形

田家松 小峰  
田家松 翔

扇 よし和

平成六年度

三十一 可愛我が子  
川 桂

蓼 胡茂  
替蓼 鈴緒  
史ま由

蓼 胡茂

平成五年度

三十二 三日月眉  
つがいはなれぬ

松峰 照  
松峰 照香

土川 きく

当日の審査員

松峰 照

(唄)平成五年度  
(糸)平成三十七年度

三十三 止めても帰る  
からくり

扇 よし和  
扇 和弓

## ■ 令和六年十二月七日(土) 午後一時開演

### ■ 東京証券会館ホール

(地下鉄東西線・茅場町)  
〒(三六六七)九二一〇

主催・公益社団法人 日本小唄連盟

<http://kouta-remmei.org>

第三十二回

# 若樹会

## ご挨拶

師走の候、皆様お健やかに過ごしの事とおよろこび申し上げます。  
扱、日本小唄連盟若手育成事業の一環として平成三年に発足致しました  
小唄「若樹会」もお陰様で本年は第三十二回を迎え、これからの小唄界  
を担う若手の登竜門として定着し益々充実した内容となりました。

日本小唄連盟は、この会が若い方々の研鑽の場となり、一人でも多く、  
すぐれた演奏家が誕生することを念願いたしております。  
皆様様におかれましては、この「若樹会」を温かくお見守り下さり、  
格別のご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

令和六年十二月吉日

公益社団法人 日本小唄連盟

一部（糸の審査・太字）

一 からす

田村 花枝  
野中 彩楽

二 はや告ぐる

春竹 利保  
伊集院 真美

三 富士見西行

稲舟 一寿  
稲舟 妙松

四 いつしかに

峰村 好美佐  
峰村 好志乃

五 河太郎

小唄 幸三希  
小唄 幸希鈴

（唄の審査・太字）

六 あの日から

松風 裕乃  
松風 裕勝

七 かまわぬ  
年に一度

田村 てる  
田村 てる  
替田村 てる子

八 わしが思い

井筒 幸誠  
井筒 幸一

九 今朝の雪

松峰 照あや  
松峰 照  
替松峰 弥生乃

十 川竹

春竹 利香  
春竹 香燕

十一 青いガス灯

田村 てる  
田村 てる子

十二 辰巳の左袂

稲舟 妙松  
稲舟 一寿

十三 つれなくされし  
いくらくどいても

春竹 香燕  
春竹 利香

平成二十八年 度

十四 いつしかに  
気に入らぬ

田家松 翔  
田家松 小峰

平成二十七年 度

十五 峠  
しばらくは々々

扇 和鼓  
扇 和弓

平成二十七年 度

十六 三社祭

蓼 佳ほる  
蓼 佳壽樹

平成二十七年 度

十七 梅が香

井筒 幸一  
井筒 幸樹

平成二十六年 度

十八 柳橋から  
むらがらす

蓼 満ゆ佳  
蓼 胡満利

平成二十五年 度

十九 木の枯し  
恋のかけ橋

蓼 胡満佳世  
蓼 胡満佳乃

（唄）平成二十四年度

二十 上野の鐘

春竹 利央  
春竹 利保

（糸）平成三十年度

（唄）平成二十一年度

二十一 梅  
楼門

田村 花枝  
田村 弓路

（糸）平成二十七年 度

平成二十一年 度

二十二 嘘のかたまり  
お互いに

春竹 利保  
春竹 利香

平成二十年 度

二十三 凍る夜  
竹は八幡

小唄 幸三卯  
小唄 幸三希

平成十四年度

二十四 一声は月  
冗談に

松峰 小玉  
松峰 照

平成十一年 度

二十五 雨やどり  
紺の前だれ

蓼 史ま由  
蓼 鈴緒

平成十一年 度

二十六 晩に忍ばば  
袖が濡れます

松峰 弥生乃  
松峰 照

（唄）平成十年度

（糸）平成三十年度

二十七 引けは九つ  
せかれ

春竹 利香  
春竹 利保

平成八年度

二十八 仲町育ち

蓼 鈴緒  
蓼 史ま由

平成八年度

二十九 羽織着せかけ  
虫が好くのか

井筒 綾奈美  
井筒 奈美妙